

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2022年5月13日）

■第2版 第1刷（2021年9月15日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第1部 第1章					
26	下から3行目	…、蛍光分子による	…、 Ca²⁺感受性 蛍光分子による		22/05/13
第1部 第2章					
29	8行目	大隅典子 著	大隅典子 著	「大隅典子」を太字に	22/05/13
30	下から6行目	…、 終脳 、すなわち	…、 終脳 、すなわち	「終脳」を太字に	22/05/13
30	下から5行目	…、 間脳 （視床と視床下部）	…、 間脳 （視床と視床下部）	「間脳」を太字に	22/05/13
30	下から3行目	…、 橋 （腹側部位）、 小脳 （背側部位）、 延髄 に	…、 橋 （腹側部位）、 小脳 （背側部位）、 延髄 に	「橋」「小脳」「延髄」を太字に	22/05/13
31	8行目	図1-8Dに 記したように 、神経系の	図1-8Dに 示した 神経系の		22/05/13
第2部 第2章					
72	下から5行目	ゆがみ を感じる	張力 を感じる		22/05/13
第2部 第6章					
106	下から8行目	栗原堅三	栗原堅三	「栗原堅三」を太字に	22/05/13
107	Colum本文、左段2行目	池田菊苗	池田菊苗	「池田菊苗」を太字に	22/05/13
107	Colum本文、右段1行目	栗原堅三	栗原堅三	「栗原堅三」を太字に	22/05/13
109	下から9行目	電位依存性の イオンチャネル	電位依存性 Ca²⁺チャネルの一種		22/05/13
113	下から8行目	味や匂いを 嗅ぎ 分ける	味や匂いを 感じ 分ける		22/05/13
114	本文3～4行目	味覚器は 味細胞 をコンパクトに 収める味蕾 を有する。	味覚器は 多数の味細胞 をコンパクトに 収めた組織で味蕾 とよばれる。		22/05/13
第3部 第1章					
127	下から10行目	Ca ²⁺ が 筋原線維に 放出される 。	Ca ²⁺ を 筋原線維の 表面に向けて放出する 。		22/05/13
127	下から1行目	多数の抑制性 介在ニューロンが存在し、	抑制性や興奮性 の介在ニューロンが存在し、		22/05/13
第4部 第3章					
176	下から5行目	ほとんど細胞に	ほとんど の 細胞に		22/05/13
第5部 第2章					
196	図5-6		※1 参照		22/01/21
奥付					
296	発行日2行目	2019年5月10日 第1版第 4 刷発行	2020年7月15日 第1版第 5 刷発行		21/09/17

※1 以下の図への差し替えをお願いいたします(喉頭蓋の形状を修正いたしました).

ヒトは直立することで大きな脳をもつことができるようになりました。それに加えて、喉頭蓋が下がり、咽頭との距離が生じて、音声を響かせ、よりデリケートに表現することができるようになりました

